

へば、後におくれたる名を取る事有之もの也。一段の事と被_レ申由。とあり。按ずるに、可觀小説には、市川左馬助と彌五兵衛の初名なるべし。また御射手組とあるも誤ならん。菅家見聞集には、萬治元年之暮、御小將組市川彌五兵衛御成敗。此事奥村因幡宅にて申渡。御使組頭兩人押込、取手足輕森川五郎右衛門・寺尾平右衛門捕之殺害す。彌五兵衛常々不行儀により、其組頭へ呼寄候へ共不罷出。依之如右被_レ仰付。とあり。また其の體なる事實は、會所留記に載せたる天和二年七月十五日森川五郎右衛門が自記の由緒書に、先年市川彌五兵衛被_レ仰付時分、惣足輕中小頭共之内を、御老中御指圖に而、私共撰出候旨齋藤長兵衛被_レ申渡。則奥村因幡殿被_レ召寄、彌五兵衛召捕之儀、叶可_レ申哉与被_レ仰候に付、私申上候は、私式被_レ撰出候段冥加至極奉_レ存候。此者儀體に召捕上可_レ申旨御請申上候。其節上御奉行茨木源五左衛門殿・山崎小右衛門殿被_レ仰付、彌五兵衛方は罷越、私并小坂五郎兵衛と申足輕一人召連内へ入、私一人は裏口へ廻り、走り入申旨聲を懸候へば、彌五兵衛罷出候處、無_レ異儀からめ捕、右上御奉行衆に相渡候へば、其場に而被_レ

致殺害候。と記載す。はその實事なるを、後人追々過聞して、諸記録に載せたり。故に其の事實互に齟齬して、殺害人の姓名までもさまざまに書載せたり。又捕手森川五郎右衛門の相手を、寺尾勘助或は寺尾平右衛門などと載せたるも、小坂五郎兵衛と云ふ足輕一人召連内へ入るとあるを、過聞せしもの也。森川五郎右衛門が傳は、新堂形公事場森川屋敷の條に載せたり。

○光明山靈經寺

淨土宗也。貞享二年の由來書に云ふ。當時開基了願寺開山了願和尚、元和九年觀音町地子地に建立。とあり。按ずるに、了願和尚は如來寺五代目の住職の處、元和八年に如來寺を退院して、了願寺を觀音下に建立し、その翌年壽經寺を建立ありし也。

○化物橋

金澤橋梁記に、ばけもの橋觀音町あか鳥居向。とあり。

○御歩町

觀音下御歩町ともいへり。元祿六年の土帳には、觀音町御徒町とも、觀音の下御徒町ともありて、昔は歩士の邸地をば、

此の地と犀川堅町御歩町と兩町なりし故に、觀音下御歩町と呼びたるもの也。高澤忠順の金澤事蹟必録に、昔は茶磨山の麓に人家町屋有りて、御歩士の住所也。然るに元祿十二年極月下旬、俄に山崩にて人家を押し埋み、死人夥し。夫より此山を茶磨山の出崎崩れ山と云ふ。とあり。されば今いふ崩れ山の下邊までも、昔は歩士の邸地なりしならんか。

○豊國町

御歩町の繼きを呼べり。舊藩中は觀音山に、卯辰山王社として城内の産土神あり。此の社内へ豊國の神靈を合祀せらる。明治元年に神佛混淆御廢止被_レ仰出に付き、取調の際、山王の社號を廢し、豊國の社號を主張して、豊國神社と改稱あり。豊國町の地は則ち社殿の麓なる町也とて、此の時より豊國町と呼べり。

○觀音下大工町

觀音町大工町とも呼べり。改作所舊記に、元祿三年三月十七日朝五つ時頃、堀宗叔家より出火にて、觀音を殘し、其下大工町・御歩町不殘燒失すとあり。

○觀音町大工來歴

貞享二年の金澤組大工肝煎六助由緒書に云ふ。天正十二年御帳面大工百人餘、御判紙を以屋敷拜領被_レ仰付、棟取は百歩、仕手大工は一人に五拾歩宛、今町・中町・修理谷坂近邊之内大繩に而被_レ下、則其所を大工町と相唱申候處、寛永八年四月金澤大火の時類燒致し、同年右拜領屋敷所替被_レ仰付、犀川大工町・出大工町・淺野川觀音町にて代り地被_レ下とあり。按ずるに、改作所舊記に如左記載す。

御尋に付而申上候。

一、私儀五・六ヶ年以前より金澤くわんおん町に罷在、名は三四郎と申、御作事御帳に付申大工にて候へ共、身すぎなり不申に付て、近年在々をすぎ歟、又は小家など御座候へば立あるき申候處に、去年より上あらや村に罷在申候。右之通相違無御座候。以上。

寛文七年三月十六日 上あらや村大工十左衛門

覺

一、壹人 大工 石川郡上あら屋村十左衛門

此もの先年は金澤之ものにて御座候處、近年在郷をすぎ